

SHIMANTOGAWA MONOGATARI

2020.6.24
Vol.284

広見川と四万十川を考える。 ～第1回 広見川と四万十川の協議変遷～



四万十川から見た広見川との合流点 ホテル星羅四万十より撮影【2020年5月13日】

皆さん、こんにちは。いつも清流通信をご愛読いただきありがとうございます。四万十川では6月に鮎漁が全面解禁になりました。今年の豊漁に期待しています。さて、少し時を戻して鮎漁解禁のちょうど一月前のことを思い出してほしいと思います。この時期は田植えの忙しい時期でした。同時に、四万十川では広見川の濁水の問題がクローズアップされてくる時期です。

今回からの清流通信では特集として2回連続で、四万十川とその支流である広見川の濁水問題について皆さんと考えていきたいと思っています。



広見川から見た四万十川との合流点 新川崎橋より撮影【2020年5月13日】

■田植え時期に川の色が変わる

新緑も青々とし初夏を感じさせる5月。四万十市西土佐を流れる四万十川は、西土佐大橋あたりから川の色が濁りを増すことがある。そこは、愛媛県を上流に持つ広見川との合流点だ。毎年、この時期になると広見川から流れ出る土色に濁った水が本流の四万十川の透明な水にぶつかり、ツートーンカラーを作りながら下流へと流れていく。しばらく下るとお互いが混ざり合い、5、6km下流までその濁りが続くこともある。

「最後の清流四万十川」というイメージが全国に広まったのは1983年のNHKの特集から。その後地元の人々も驚くほどに多くの観光客が訪れ、観光という大きな経済循環を作り上げている。四万十川流域の人にとって、四万十川は食糧を得る場として生きるために欠かせない生活の一部であった。時代が変わり便利になった今でも、経済の基盤として四万十での暮らしを支えている。その中で、地元の人々が思う以上に四万十川の清流としてのイメージが求められるようになってきた。そこで顕在化したのが、田植え時期になると広見川から流れてくる濁りだった。

いつ頃から濁りが強くなってきたのかは定かではない。昔からそうだったという人も、昔は泳いで遊んでいたが平成に入ってから濁りがきつくなってきたという人もいる。

■ 広見川濁水問題の難しさ

広見川は支流を複数持っているが、特に三間川の農業排水が濁水の主な原因ではないかと言われている。三間川の濁水が広見川本流へ流れ込み、四万十川へ合流するのだ。しかし、原因は農業に限らず土質や山の荒廃など多方面に考えられ、三間川流域を中心に広見川流域の市町村が様々な対策を行っているが、それでも、濁りが止められない。その調査や対策については非常に気になるところだが、今回は書ききれないため、次回に詳しく書いていきたい。

少し四万十川と広見川、特に三間川流域の水利用の違いを見ていこう。

広見川といってもそこには水環境の異なる地域が多くある。特に三間川の三間周辺は、昔から水不足に悩まされてきた。平地は広がるが保水ができる山を持たず、知恵を絞り助け合いながら多くの貯水池を作り、先祖代々貴重な水を守りながら暮らしてきた。三間米として有名な米どころであるが、米作りにも多くの水が必要である。貯水池の水は自由に使えるわけではなく、上から順番に落とされ、決まった日に一斉に代かきをしなければならない。時には、勝手に水が流されないように当番で夜通し見張りをすることもある。兼業農家も多く、水のタイミングに合わせて本業の休みを取る人もいるようだ。近年は、圃場整備で効率の良い水路が作られ、可動堰の設置、くみ上げポンプの利用なども行われるようになってきた。

四万十川流域は多くの森林を持ち、支流も多く水が豊富であるが、それゆえ昔から多くの水害が発生する。そこに暮らす住民は住居を高い位置に建て、避難準備や増水時の水位上昇を常に意識している。昔からの知恵や工夫が今の時代にも続いている。近年では、水害も四万十川流域に限ったことではなく西日本豪雨で広見川流域が大きな被害を受け、住人の水害に対する意識も高まっている。

少ない水を大切に使いまわし水の濁りが常となっている三間川、時として多すぎる水に頭を悩ませながらも澄んだ水が常に流れる四万十川。この大きな違いこそが、この問題の根本ではないかとささ思ふ。広見川の濁水問題を議論するうえで両者の違いを理解することがはじめの第一歩なのだ。

加えて、このような景観的問題に焦点を当てた議論は非常に特殊であることも知っておきたい。琵琶湖や霞ヶ浦で富栄養化や物部川で鮎遡上にかかわる問題として濁水が取り上げられているが、濁水によって「最後の清流四万十川」のイメージが崩れることが議論されるのは四万十川特有な問題だ。

広見川の濁水問題が取り上げられるようになって20年以上になるが、両県で今までどんなことがおこなわれてきたのだろうか。今回は、広見川の濁水をめぐる愛媛県と高知県の動きをたどって現在を振り返りたい。

■ 愛媛と高知の濁水対策に向けた動き

【愛媛側の動き】

昭和56年、「広見川等をきれいにする協議会」が発足されたのが広見川の水質改善を目指す始まりだった。平成13年に高知県で「四万十川条例」が発令されると、翌年には広見川流域の市町村を中心に「四万十川流域の河川をきれいにする条例」が制定され、広見川の水質改善に向けて方針が出された。平成18年、高知県知事は愛媛県知事に広見川の水質改善を求め、愛媛県南予地方局は濁水の調査、研修会、農家指導を始める。

平成21年から23年にかけて、愛媛県の南予地方局で地域の主要な課題解決を図るための独自事業の実施が可能となり、まずは農業部門での濁水の抑制対策を検討するため「広見川等農業濁水流出対策事業」が予算化された。その際に、愛媛大学と農林水産研究所の専門家等が研究を行い、広見川の濁水の原因や対策について具体的な方針を示すことができた。また、連携して関係市町、JA、生産者組織等で構成する「広見川農業排水対策協議会」が発足し、農業分野での河川濁水の主要な原因とされる水田の代かきや田植えによる濁水流出防止対策の取組強化を目指した。愛媛県の事業が終了した後も、この会は広見川流域市町を中心に活動が行われている。

【高知側の動き】

同時期に高知側では県へ「清流のイメージで橋の上から見たら四万十川のイメージがダウンし、あまりにもギャップがあった」と投書があった。それを受けて、四万十市西土佐の有志が広見川を見て回り調査と現地確認が行われ、合流点などで特に三間川の濁水が強いこと等が分かった。愛媛県による「広見川等農業濁水流出対策事業」の研究結果と講習会を受けて、高知県も要請だけではなく力を合わせて進まなければいけないと、各漁協、JA、行政で広見川の濁水について話し合いが行われ、西土佐の商工会を中心に「四万十市広見川濁水対策協議会」が設立された。その後、具体的に濁水の改善に向けた調査や検討が行われ始めた。

様々な活動を行うものの改善されない濁水に、平成26年、幡多三市一町一村区長会が高知県へ水質浄化要望書を提出し、改めて高知県知事から愛媛県知事への対策要請が行われた。



三間川流域の二名稲作地域 【2020年5月13日】

【両県の協議】

愛媛県と高知県の両者でそれぞれの動きがとられていたが、平成16年に「四万十川愛媛高知連携協議会」が発足し、両県の話し合いが持たれるようになった。その後、毎年両県や市町村が濁水の原因と対策について協議を重ね、川の環境保全活動の状況等も共有された。平成22年以降、愛媛県の事業による愛媛大学等の研究報告が行われ、様々な面から農業濁水の原因と対策が明らかになった。その後、止水板の配布と浅水代かきの普及、代かきから田植えの期間短縮化等の濁水対策が進められた。

平成29年には愛媛・高知交流会議で両知事の話し合いが持たれ、降雨の影響を把握するため、愛媛は濁度計による調査、高知県は月1回の採水、定点観測それぞれ新たに始めた。また、四万十市の協力により川崎橋から目視(毎日1回・勤務日)を始めた。

両県の協力体制のもと、大きく前に進み始めた平成30年に西日本豪雨が発生。愛媛県は深刻な被害に見まわれた。愛媛県の災害復旧は今も続いており、「四万十川愛媛こうち連携協議会」での協議は一時中断し現在に至る。

しかし、昨年(令和元年)には四万十市西土佐と広見川農業排水対策協議会の農業分野関係者での会議が開催され、それぞれの取組について情報共有が行われた。これまでの取組に加えて、新たな解決策へ向けての検討も始まっているようだ。

人間界の事情を川は知る由もなく、ただ流れていくだけ。田植え時期になると茶色く濁った川の流りは続いていく。次回は広見川の現状を長年のデータで明らかにし、改めて課題と今考えられている原因、そして解決への道を見ていきたいと思う。



広見川支流の三間川と奈良川合流点【2020年5月13日】



三間川三間支所近辺 可動堰上流【2020年5月13日】

広見川濁水問題 協議変遷

	両県	高知	愛媛
1981			「広見川等をきれいにする協議会」発足
1995~1997		「四万十川のごり機構解析調査」実施	
2001		「四万十川条例」制定	
2002			松野町「四万十川流域の河川をきれいにする条例」制定
2005	「四万十川愛媛高知連携協議会」発足		鬼北町、宇和島市「四万十川流域の河川をきれいにする条例」制定
2006	愛媛高知交流会議で高知県知事より濁水改善要請		
2008	「愛媛・高知交流会議」 高知県知事から広見川の代かき濁水の改善を要請し、愛媛県知事から改善の対策の発言		愛媛大学プロジェクト「水田代掻き、田植え時の濁水流出対策に関する調査研究」開始
2009			広見川等農業濁水流出対策事業を予算化 「広見川等農業排水対策協議会」発足 濁水防止実証圃設置(南予地方局) 土壌改良剤や肥料による濁水沈降効果実施(農林水産研究所)
2010~2011	「愛媛・高知交流会議」 高知県知事から広見川の濁水防止の呼びかけ	「四万十市広見川濁水対策協議会」発足	広見川等農業排水対策協議会による研究結果共有の研修会実施 濁水防止展示圃の設置(南予地方局) 土壌改良剤や肥料の濁水沈降効果の品質向上(農林水産研究所)
2014		幡多三市一町一村区長会が高知県へ水質浄化要望書提出	
2015	「愛媛・高知交流会議」 高知県知事から広見川の環境保全について呼びかけ	幡多三市一町一村区長会連絡協議会から、広見川の濁水対策について再度要望	
2016	「愛媛・高知交流会議」 高知県知事から広見川の環境保全についてお願い	幡多三市一町一村区長会連絡協議会から、広見川の濁水対策について再度要望	
2017	「愛媛・高知交流会議」 高知県知事から広見川の環境保全についてお願い	幡多三市一町一村区長会連絡協議会から要望 四万十川の水質保全について愛媛県と共通認識のもと、継続的な協議の実施を要望	
2018	「愛媛・高知交流会議」 高知県知事から広見川の環境保全についてお願い	幡多三市一町一村区長会連絡協議会から要望 四万十川の水質保全及び景観保全について要望	
2019		西土佐地区の漁協、商工会、観光事業者及び広見川流域各区分長を対象とした説明会を実施	
2020	「愛媛・高知交流会議」 高知県知事から広見川の環境保全についてお願い	幡多三市一町一村区長会連絡協議会から要望 四万十川の水質保全及び景観保全について要望	
	広見川等農業排水対策協議会と四万十市との意見交換会を実施		



四万十川財団の 四万十川なつぶやき

局長のつぶやき

皆様、お元気でしょうか？

コロナ感染症の影響でなかなかできなかった環境学習が大慌てで始まって、私たちは自転車操業状態です！！！！

それにしても、川は面白い。何時間でも入れちゃうな～夏が大好きな神田でした。

なかののつぶやき

カメが大好きなんです。最近の隣のハ〇ヤで素敵なカメのガチャができました。でも、今は壊れているんです。まだ、数個取り残されたカメたちがいるのでいつか救いたいと思っています。



はかたのつぶやき

局長！ずっと探してたものが局長机から出てきましたけど！！オリン〇スのカメラもなくなるし・・・もうっ！！！！

ちょっとイラっとすることもあるけど、最近環境学習の子どもたちに癒されております。

まるいしのつぶやき

入社してアッという間に3か月が過ぎます。

最初はわからなかったカワゲラもカゲロウもトビケラ・・・テレワークで近くの川をガサゴソして勉強しました。すると、アミカを発見！小学生達にも見せたい・・・



四万十川 川魚情報

中流域：近年稀にみるほど鮎が多い！大きさはかなり小ぶり。

目黒川では、鮎が多くよく見えるがかなり小ぶり。どこのポイントも土日は人でいっぱい。

上流域：大野見まで鮎の天然が上がっているという人もいるが、現在調査中。他の流域同様小ぶり。

	4月	5月	6月	
鮎			285.7	6/17まで
川エビ	0.5	40.2	31.7	6/9まで
鰻	31.1	76.7	25.7	6/9まで

四万十川西部漁業協同組合「鮎市場」に協力いただき入荷状況を教えてもらった。今年は鮎の入荷が非常に多くなっている。昨年同月の10倍！中流域は本流も支流も土日は釣り人であふれている。しかし、今年は小ぶりで17, 8cmが主流になっている。鰻は例年に比べて少なく、川エビは若干多くなっているようだ。

四万十川西部漁業協同組合 鮎市場の入荷状況 (kg)

上流も中流もコロナ感染症の影響で鮎等の販売が非常に厳しい状況に陥っているようです。お中元などで四万十川の鮎を送ってみてはいかがでしょうか！